

壱岐警察署協議会令和6年度第2回会議議事概要

日 時	令和6年7月25日(木) 14時00分～16時00分
場 所	壱岐警察署講堂
出席者	<p>1 協議会 日高会長 岩本委員 伊佐藤委員 馬場委員</p> <p>2 警察署 松尾署長 山口副署長 吉永刑事生活安全課長 宮崎地域交通課長</p> <p>3 書記 警務係長</p>
会議の状況	<p>1 提出意見に対する推進状況について 署長から、令和6年度第1回定例会における提出意見である「イベント開催時における交通事故防止と犯罪抑止活動」に対する推進状況について、次のとおり説明があった。</p> <p>(1) 交通事故防止対策の推進について ツール・ド・壱岐島において大規模な交通規制を実施した結果、交通規制に絡む交通事故や大規模な渋滞等は発生しなかった。</p> <p>(2) 犯罪抑止活動の推進について 「社会を明るくする運動」の広報キャンペーンに際し、青色パトロール隊と協同して防犯広報活動を実施した。</p> <p>2 諮問テーマへの答申に対する推進状況について 署長から、令和6年度第1回定例会における諮問テーマ「壱岐署員及びその家族が、壱岐で生活する上でのアドバイス」への答申「住民が行う各種スポーツ大会への積極的な参加、地元スーパーや料理店の家族での利用及び各種イベントへ家族での積極的な参加」に対する推進状況について、次のとおり説明があった。</p> <p>(1) 警務課だよりの作成 委員の皆様からのアドバイスについては、警務課だよりを作成し、さらに幹部会議で指示するという方法で署員にアドバイスの浸透を図った。</p> <p>(2) スポーツを通じた交流状況 壱岐署員の中には、各種スポーツに励む者が多くおり、それぞれ大会等でも良い成績を収めている。 今後も職員同士で様々なスポーツに誘い合い、スポーツを通じた地域の方々との交流を促したい。</p> <p>3 令和6年4月から6月までの業務重点推進結果について 署長から、次のとおり説明があった。</p> <p>(1) 少年の非行及び犯罪被害防止対策の推進 ア 少年に対する防犯講話等の実施 イ 街頭補導及びキャンペーンの実施</p> <p>(2) 事件検挙・発生状況</p>

- ア SNS型投資詐欺の認知
- イ 連続窃盗事件被疑者の逮捕
- (3) 新年度における交通安全対策の推進
 - ア 小学生等に対する交通安全対策の推進
 - イ 交通安全施設点検整備の推進
- (4) 災害対策の推進
 - ア 警察署代替施設における機能移転訓練の実施
 - イ チェーンソー使用訓練の実施
 - ウ 防災合同パトロールによる災害危険箇所の確認
 - エ 防災無線による告知放送の実施
- (5) 壱岐署ふれあいイベントの実施
 - ア 地域の方々との交流及び効果的な警察広報の実施
 - イ イベント以外の音楽隊・白バイを活用した広報活動

4 業務重点推進計画について

署長から、次のとおり説明があった。

- (1) ニセ電話詐欺、SNS型投資・ロマンス詐欺の被害防止活動の推進
 - ア ニセ電話詐欺等を認知した際の情報提供の実施
 - イ 被害発生防止のための広報・啓発活動の実施
- (2) 重要凶悪事件の未然防止及び発生時における被疑者の早期検挙
- (3) 夏期における交通事故防止対策の推進
 - ア 飲酒運転防止対策の実施
 - イ 交通マナー意識向上対策の実施
- (4) 警察官Ⅲ類採用活動の推進
 - ア 組織の魅力発信
 - イ 警察志望者の獲得とサポート
- (5) 災害発生時の迅速な対応

5 速度取締り指針について

宮崎地域交通課長から、次のとおり説明があった。

- (1) 壱岐警察署の速度取締り重点
- (2) 壱岐警察署管内の交通事故発生状況
- (3) その他の交通指導取締り重点
- (4) 悪質危険な交通違反に対する現状と取組

6 諮問テーマに対する答申について

署長から、協議会に対して諮問があり、協議会から次のとおり答申があった。

(1) 諮問テーマ

ハラスメントを無くした上で、適切な指導を行うための取組

(2) 協議会からの答申

日高会長から協議会委員に対し、次のとおり署長への答申内容について確認があり、全会一致で了承された。

ア 指導する側としてハラスメント防止の取組への心構え

上司は、部下のための指導であることを理解し、部下にも自分自身のために指導を受けていると理解させることが大切である。

イ 指導される側としてのハラスメントのある上司とハラスメン

トのない上司の違い

信頼関係が大切である。そのため、日頃から良好なコミュニケーションを取る必要がある。

ウ 指導する側として適切な指導方法

「なぜ〇〇しなかった。」という指導よりも「〇〇したら良かった。」というフィンプレー方式の指導が良い。

また、できるだけ具体的に相手をサポートしてあげることが大切である。

エ 指導される側が思う適切な指導方法

具体的な指示とスケジュール等の見える化が大切である。